

## 最終試験の結果の要旨

報告番号	総論第	24号	学位申請者	五月女 さき子
審査委員	主査	山崎 要一	学位	博士 (歯学)
	副査	田口 則宏	副査	中村 典史 J
	副査	宮脇 正一	副査	田松 裕一 J

主査および副査の5名は、平成27年10月14日、学位申請者 五月女 さき子助教に面接し、学位申請論文の内容について説明を求めるとともに、関連事項について試問を行った。具体的には、以下のような質疑応答がなされ、いずれについても満足すべき回答を得ることができた。

質問1) 項目数の決定に用いた因子負荷量とは何か。

(回答) 因子の観測変数に対する影響の強さを示すもの、相関係数である。負荷量がどの程度以上になった場合に因子と関連があるかという明確な決まりはないが0.3から0.5を目安にすることが多く、今回は0.4で行った。

質問2) 因子分析を行う場合の明確な基準は何か。

(回答) 因子数の決め方、因子分析の回数等、数学的に明確な基準はなく、「自分のデータが上手く解釈できる」ように、分析者が判断することで分析者のアイデンティティが出る。

質問3) 心理尺度における信頼性とは何か。

(回答) 測定値の安定性や一貫性のみを示す概念である。一貫性とは「項目間で回答が一致しているか」、何度も繰り返し測定する場合の測定値の安定性である。一般的には信頼性係数は0.8以上の値が望ましく、0.5を下回った場合、その尺度は放棄することになる。

質問4) 心理尺度における妥当性とは何か。

(回答) 測定値の正しさを示す概念である。「尺度が測りたい対象を正確に測れているか」を意味する。基準関連妥当性、内容的妥当性、構成概念妥当性のうち、今回は外的な基準を設定し測定された尺度得点との相関について検討する基準関連妥当性を用いた。

質問5) SEOHは5段階評定であり、LOCOHは4段階評定で評価しているが、その違いは何か。

(回答) 外的基準の測定尺度がそれぞれ5段階、4段階であり、どちらかに統一すると妥当性の検討ができないため。

質問6) SEOHは男女差が認められたが、学年間の差はなかったのか。

(回答) 学年間、学科による差は認めなかった。

質問7) 既存の尺度では男女差、年齢差、尺度の測定に年齢制限はあるのか。

(回答) 性や年齢による差は認めない。SEOHは13歳以上、LOCOHは成人対応である。

質問8) 学生特に医療系の学生を対象としたことでバイアスはないか。

(回答) 保健行動に関する意識が全体的に高いレベルにあったことも予想され、平均値や得点分布は一般的な成人を対象とした場合と異なっている可能性があるが、項目分析時に削除された項目は医療系学生に特筆した項目ではなく学部共通した項目であった。また医療系学生であれば削除相当と予測された項目が選定されており、医療系学生が対象であったことが尺度の信頼性や妥当性の検証に直接影響する可能性は低いと思っている。

質問9) 心理尺度作成の際には因子分析は一般的な方法なのか。

(回答) 一般的な方法である。

## 最終試験の結果の要旨

質問 10) 今回作成した尺度の今後の用法についてどう考えるか。

(回答) 他者との比較ではなく、個人のモチベーションの向上に活用したい。

質問 11) この心理尺度の研究を始めたきっかけは何か。

(回答) 女性の矯正治療患者は保定になるとプラークコントロールが悪化する。これには心理的な要因が関係しているのではないかと、それを数値化できないかと考えた。

質問 12) アンケート (30 項目) はどのように作成したのか、それとも既成のものを使用したのか。

(回答) 新たに作成した。8 項目に対して自由記述とし、これらの中から回答頻度の高い表現を基に内容的妥当性を検討して調査項目とした。

質問 13) 自己効力感やローカスオブコントロールという概念は歯科領域以外での教育に応用することは可能か。

(回答) 可能である。自己効力感はコーチングや、アメリカでの教育現場にて活用されている。

質問 14) 両概念を具体的に説明して欲しい。

(回答) 自己効力感: 「練習すれば跳び箱が跳べるようになる」ことに対して、「自分が跳び箱の練習をどの程度やり遂げることができるか (続けることができるか)」を考えて、確実に飛べる段から実行していき、成功体験を得る。この努力が確実に結果に結びつく「スモールステップ」を繰り返していく。ローカスオブコントロール: 埋伏歯の抜去について説明する場合、実際の手技をビデオで見せて、内容を理解できると判断する人は内的統制、つまり自力本願の考え方だが、見たことで恐怖心などが出て抜歯を怖がる人は外的統制、つまり他力本願の考え方である。

質問 15) 歯周病患者のセルフケアに対する自己効力感との違い、SEOH の特徴は何か。

(回答) 8 項目が角館らの尺度と共通している。刷牙行為に関する項目は共通しているが、本尺度では「工夫して磨く」、「必要なアドバイスは聞き入れて行う」など患者自身の「自発性」が特徴的である。「心理的統制に対する自己効力感」因子は SEOH 固有であり、「感情のコントロール」が重要であることが特徴的である。

質問 16) スウェーデンでローカスオブコントロール尺度が開発されているが、新たに作成した意図は何か。

(回答) 人種による差が報告されているので、日本人に対応した尺度を作成した。

質問 17) LOCOH 尺度において因子負荷量の低い項目があったが、何故か。

(回答) 両項目は、対象者の半数が歯学部学生であるためにバイアスがかかった可能性がある。母集団が変わった場合、因子負荷量が高くなる可能性があるため、あえて残した。

質問 18) LOCOH と外的基準との関連で 1 つだけ相関を認めなかったが、尺度の信頼性に影響しないか。

(回答) その他の項目で相関を認めており尺度自体の妥当性に問題はないと思われる。

質問 19) LOCOH と SEOH の相関があるもの、ないものがあるが、尺度の信頼性に影響しないか。

(回答) LOCOH と SEOH との併用・同時使用に関する相関を検討しているものであり、両者は尺度全体において相関を認めていることから問題ないと思われる。

質問 20) 尺度の具体的な使用例はあるか。

(回答) 実際の臨床応用はまだないが、複数の看護領域から使用したいとの依頼があった。

質問 21) 今後、尺度はどのようなことに活用できるか。

(回答) 周術期口腔管理などの口腔ケア、また看護領域での口腔ケアの効果の判定に活用できる。

以上の結果から、5 名の審査委員は申請者が大学院博士課程修了者と同等あるいはそれ以上の学力・識見を有しているものと認め、博士 (歯学) の学位を与えるに足る資格を有するものと認定した。